



# 岡 津



「つなぐ 自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>



学校だより 6月号  
令和5年5月30日  
横浜市立岡津小学校  
校長 下畝 直人  
TEL 811-4104  
FAX 812-4586

## 『雨の日には雨の中を 風の日には風の中を』

副校長 松谷 隆広

新年度の学校生活が始まり2か月が過ぎました。子どもたちは新年度の新しい出会いや環境によりやく慣れてきた頃ではないでしょうか。

さて、新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが変わり、2類感染症から5類感染症に移行しました。流行が完全に終息したわけではないため、今後も共存する生活は続きますが、5類感染症になったことで感染対策が大幅に緩和されました。社会全体がコロナ前の活気を少しずつ取り戻しつつあります。令和2年3月に感染拡大が始まった新型コロナウイルス感染症は、この3年間、学校生活に大きな影響を及ぼしました。臨時休校、学校再開後の分散登校、マスク着用による息苦しさやお互いの表情の読み取りにくさ、グループ活動の制限、道具類を共用する教科での活動制限、運動会や宿泊を伴う体験学習等の度重なる延期と規模の縮小、入学式や卒業式等の式典行事の実施方法の変更等々、多くの活動が制限されました。対面での活動の多くが制限される一方で、GIGAスクール構想は一気に進み、学校のICT環境は整いました。

## 『雨の日には雨の中を 風の日には風の中を』

詩人であり、書家である、相田みつをさんの詩です。その著書『生きていてよかった』（ダイヤモンド社）の中でこの詩について次のような解説をされています。「雨の日には雨の中を生きるしかないんです。風の日には風の中を生きるしかありません。ここでいう雨や風は、人間が生きていく上に起きる様々な問題や悩みのことです。」(中略)「長い人生ですから長続きしないものはダメです。長続きできるガマンこそが『雨の日には雨の中を 風の日には風の中を』の生き方です。」コロナ時代の今、この詩が伝えていることの普遍性を改めて感じます。また、「雨」は一見すると悪い天気のように考えがちですが、自然の植物の成長にとっては、むしろ都合がよく、良い天気とも言えます。天気に限らずあらゆる事象において、それが良いのか悪いのかは、状況、立場、考え方次第です。

令和5年度は学校にとって大きな変革の年になることが予想されます。感染法上の制限は大幅に緩和されましたが、新型コロナウイルス感染症の流行が完全に終息したわけではない今、教育活動を再開していく際、コロナ前の旧態依然に戻すのではなく『雨の日には雨の中を 風の日には風の中を』のように、持続可能なものは何かを考えて新たに作り上げることが大切であると考えています。学校はこの3年間、人数や時間を制限しても実施しなければならないもの、リモートでできるもの、慣例で行ってきただけで実施しなくても困らないものを精査してきました。時間をかけて話し合っただけで計画したことを翌日に変更しなければならないこともしばしばありましたが、その経験は決して無駄ではなく、これからwithコロナ時代の教育活動を考える際に必ず役立つはずです。子どもたちと一緒に考えながら職員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、引き続いての地域、保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。